

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4270105077
法人名	医療法人 秀和会 釣船医院
事業所名	グループホーム『おお空』
所在地	長崎県 長崎市かき道1丁目29番8号 (電 話) 095-839-9939
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 9月 26日

【情報提供票より】（平成20年4月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17	常勤 7人, 非常勤 10人, 常勤換算 8.25人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	1～2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	42,000円		その他の経費（月額）	円
敷金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

（4）利用者の概要（ 4月 1日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 72 歳	最高 92 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人秀和会釣船医院・医療法人泉田外科・鳥越歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎市東部の住宅団地の入口部分に位置し、車の往来が激しい道路面に接しているが、玄関を入ったところには坪庭を模した季節の草花が活けられており、静かで家庭的な雰囲気である。2ユニットはそれぞれ個性を持ち利用者に合わせた独自の支援をしており、買い物やドライブなどでは互いに協力し合って支援するなど複数ユニットのメリットを活用している。職員は理念を理解し利用者本位を尊重し残存能力を活かす支援に取り組んでいる。また、ケアプラン作成時、見直し時には利用者、家族の希望を聞き記録して計画に反映させることを忠実に従っており、更に改善計画シートを活用し優先順位をつけて改善に取り組むなど利用者へのサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	評価の意義については、ホーム職員全体で理解している。昨年度の改善項目は改善シートを作成し、優先順位をつけて全員で改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、パートも含め全員でフロア会議や常勤者会議を利用して作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、事業所代表、各ユニット管理者、ケアマネージャーで構成されており、3ヶ月に1回行われている。会議で出た要望や改善事項は早急に話し合い、実行できるものは実行している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族の意見は、面会時に時間を取って話を聞くようにしている。家族のケア、家族の話を聞くことは重要であり、気軽に話せる関係を作っている。苦情窓口は、内部、外部ともに設けており、重要事項説明書に明確に記載し、契約時に家族への説明をしている。また、苦情解決委員会の運営規程も作成し、苦情対応手順も定めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の行事では、夏のペーロン大会や神社のおくんち、清掃や草むしりなど利用者も一緒に参加している。また、事業所の敬老会、クリスマス会などには保育園の園児の遊戯や婦人会の日本舞踊、二胡の演奏などボランティアで参加があり、新年会のお茶会に招くなど互いに交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初から「いっしょに、いつも、いつまでも」という理念を掲げて利用者の生活を支援している。地域の方々とは“いつも、いっしょ”にという思いを持ち積極的に交流を持っている。昨年度の調査結果を基に全職員で、再確認し、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を実践するためには利用者から信頼される職員であることが第一と考え、人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れず接することを日々の支援で実践している。また、地域の人たちと一緒に仲良く過ごすよう散歩の時に挨拶を交わしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事では、夏のペーロン大会や神社のおくんち、清掃や草むしりなど利用者も一緒に参加している。また、事業所の敬老会、クリスマス会などには保育園の園児の遊戯や婦人会の日本舞踊、二胡の演奏などボランティアで参加があり、新年会のお茶会に招くなど互いに交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善項目は改善シートを作成し、優先順位をつけて全員で改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、パートも含め全員でフロア会議や常勤者会議を利用して作成した。		

グループホーム『おお空』

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、事業所代表、各ユニット管理者、ケアマネージャーで構成されており、3ヶ月に1回行われている。会議で出た要望や改善事項は早急に話し合い、実行できるものは実行し、時間がかかるものは話し合い、実行するよう努力している。また、その結果を報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、介護保険の改定について不明な点を相談するために市へ連絡を取ってはいるが、それに対応する市の担当者が定まっていないため連携をつくるのが難しい現状がある。事業所は、消防との関わりはあるためそこから更に市町村との連絡へと深めていけるように、現在努力している。	○	今後とも市町村と連携を図り、利用者のサービスの質の向上につなげることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は長崎市内在住であるため面会が多い。少ない場合も月に一回は利用料の支払いに来られるのでその時に面会し様子を伝えている。体調の変化やヒヤリハットの報告はすぐに電話をしており、変化がない場合も月に一回は電話で近況報告をしている。金銭管理は毎月請求書を発送し報告している。職員の異動はないため報告していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、面会時に時間を取って話を聞くようにしている。家族のケア、家族の話を聞くことは重要であり、気軽に話せる関係を作っている。苦情窓口は、内部、外部ともに設けており、重要事項説明書に明確に記載し、契約時に家族への説明をしている。また、苦情解決委員会の運営規程も作成し、苦情対応手順も定めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との相性を重んじて職員のユニット異動を実施したことがあるが、離職はなく馴染みのある職員の支援で利用者は落ち着いている。新人職員には職員が付いて徐々に利用者が馴染むように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が年2回の希望の外部研修を受講できるように取り組んでいる。長崎県外であっても旅費等は事業所負担で受講を支援している。受講した研修内容は職員会議で報告しており、それが内部研修となっている。本人の希望を優先し、強制はしていない。ただし、段階に応じた研修の計画はない。	○	経験年数や役職など段階に応じた研修を年間を通して計画的に実施し、更に職員がレベルアップすることにより利用者の支援の向上につなげることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5月に近隣のグループホームと利用者、職員を交えて花見を行い交流を図った。その中で学習会や情報交換などに取り組む話ができ、今後も他のグループホームとの交流を持つ機会をつくり、相互の質の向上を図ることが出来るように考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までには本人、家族に事業所へ見学を兼ねて遊びに来てもらっている。利用開始時は家族から生活歴や趣味など詳しく聞き取り、家庭訪問で家族との関係、家族の中での本人の位置などを知り、また生活の流れを把握している。情報は管理者、ケアマネジャー、スタッフ、家族で共有し、利用者同士が馴染むまでは職員が中に入って支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を支援するだけでなく、人生の先輩であると尊敬の念を持ち接している。利用者からは物を大切にすること、他人と分けあうこと、えこひいきをしないことなど日々話を聞いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と会話する際には顔を見て話すよう心がけており、常に目配り、気配りを忘れないよう努力している。表現が困難な場合は、アイコンタクトや表情から察知しており、手をにぎると安心する利用者には手を握って希望や意向を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーは利用者の情報・要望など職員から聴取し、本人に確認している。家族には近況報告も兼ねて、要望を聞きそれらをまとめて介護計画を作成している。作成後は、家族の同意のサイン、押印をもらっている。家族には、面会時に説明し何か要望などあれば、その都度くみ取るように心がけており、職員の意見や気づきも取り入れ、一人一人に合わせた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は原則として6ヶ月ごとに作成している。そのために1カ月に1回見直し記録しており、作成の際は利用者や家族に確認を取っている。また、急な心身の状態変化の場合は職員とケアマネージャーが話し合い、家族に報告し了解を得て現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の要望に応じて、病院への定期的な受診や体力の維持向上を目的とするリハビリでの通院を支援している。家族の意向に添い外出・外泊・緊急時入院の調整など柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であるため、その場に応じた適切な受診がされている。耳鼻科、歯科、皮膚科、眼科などは家族の希望を優先して通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、看取りケアの指針を文書化しており、入所する際に家族にも説明し同意書も作成、保管している。ただし、若い職員や看取りの経験がない職員には看取りケアへの不安があり、そのための研修や体制づくりはまだできていない。	○	重度化が予想される利用者やその家族が安心して生活できるよう、若い職員や看取りの経験がない職員を対象として指針の理解を深め、全員が看取りケアが実践できるよう研修等の取り組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を重んじ、言葉掛けをしている。個人情報に関する文書等はスタッフルームに保管しており、家族の閲覧もスタッフルームにてお願いしている。個人情報提供に関する同意書を利用者、家族から取り保管しており、職員には守秘義務の誓約書を取り保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが普通の生活を送ることを重視し、可能な限り本人の意向に沿って支援している。起床や食事時間も生活のリズムが乱れない程度に自由を尊重している。		

グループホーム『おお空』

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に嗜好調査を行い、献立に活かす工夫をしている。職員は一緒に食事をしながらさりげなくサポートをしており、食卓に飾られた季節の花の話題で利用者は食事の時間を楽しみながら過ごしている。準備や片付けも無理のないように配慮しながらお願いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めず希望があれば毎日入れるよう支援している。一番風呂や時間帯の希望には他の利用者の意向も汲みながら可能な限り添うよう努力している。入浴拒否の場合は、時間をずらして声を掛けたり工夫して清潔な生活ができるよう心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダに芋や豆を栽培し利用者が収穫している。生け花の免許を持った利用者には玄関に季節の花を生けてもらい、編み物の得意な方には職員が習うなど生きがい、気晴らしの支援をしている。洗濯物干しやたたみ、新聞紙でゴミ箱作りなど役割を持ってもらう工夫もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き日常的に気分転換のドライブに出かけている。以前に比べて利用者の身体能力の衰えに伴い戸外への散歩の希望があまりないめ、車椅子利用の方も含めホームの屋上を散歩し、外気浴を楽しむ機会を多くしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所玄関は、車の往来が激しい道路面に接しており、万が一の事故に配慮して利用者の安全のために施錠している。また、現在は不穏時に帰宅願望の強い利用者がいるため施錠しているが、将来的には鍵を掛けない支援をすることを目指している。		

グループホーム『おお空』

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	毎年2回、管轄の消防署と連携を取り火災防火訓練を実施している。夜間想定では消防への通報訓練、家族、職員への連絡などを行った。地域は消防団とも訓練する機会を設けているが、地域の人々の協力を得られる働きかけはしていない。	○	火災などの災害時には、管轄の消防署や消防団がかけつけるまでの間に、利用者の安全を確保する避難誘導は地域の人々の協力が必要となるため、近隣への働きかけに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取の能力に合わせて刻みや流動食など個別に支援している。昨年度の改善項目であった水分摂取の記録は、食事摂取の記録と共に毎日バイタルチェック表に記入するよう改善し、1日10～15lの水分摂取を心がけている。特に、午前中の摂取が、体調にも良いことから、職員が工夫しながら努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間のテーブルなどに季節の花が生けてあり季節感を味わえるよう工夫している。換気もよく、不快な匂いや音は感じられない。採光はカーテンで調節しており、また掃除も行き届いており居心地の良い空間となるよう職員が努力している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族と相談しながら馴染みの家具や調度品を持ち込んで利用者が落ち着いて過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。